

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.184

発行: 令和2年6月1日

講習会のご案内



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた6月の講座をすべて中止とさせていただきます

単独講座



- 6月 7日 「庭木剪定とカイガラムシ防除講座」
- 6月 20日 「ハーブで除菌スプレー作り」
- 6月 21日 「フラワーハンギングバスケットづくり」
- 6月 27日 「山野草講座」～寄せ植え作り～
- 6月 28日 「立派なコチョウランをもらった時の講座Ⅱ」

連続講座



- 「春のタイリントキソウと夏のサギソウを楽しむ講座」
- 「これから始める家庭菜園の初級講座」
- 「四季成り風イチゴ栽培講座」
- 「誰でも楽しめる菊ガーデン講座」



展示会のご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の展示会をすべて中止させていただきます

6月19日～21日 「ミニ盆栽展」

【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")



<園芸の基礎知識> 植物の根の働き

～ 根による水の吸収 ～

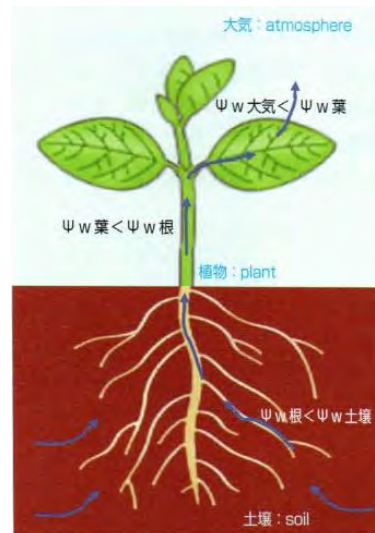
■根の吸水のしくみ

植物の吸水は主として根で行われており、根毛または根の表皮細胞から内部の細胞へと浸透的に行われています。吸収された水分は、表皮細胞から皮層を通過して内皮を経て、維管束系の木部道管細胞に入ります。吸水の大部分は、葉の蒸散作用に依存しており、蒸散のさかんな日中には吸水も活発に行われています。このほか、植物を茎の基部で切断すると、切口から水が排出されることからわかるように、根圧による能動的な吸水のしくみも働いています。この吸水はイオンを利用した能動的なもので、低温や酸素の欠乏で抑制されます。

■根から道管への水分の経路

根毛から道管にいたる水分の経路を詳しく見ると、2通りの経路があります。一つは、細胞壁の部分を通る経路であり、もう一つは細胞の中を通る経路です。細胞壁を通る経路は、水分子は細胞壁を構成する多糖類の水和水として、また、自由水として移動しています。細胞壁空間の領域は、細胞質（サイトプラズム）に対して、アポプラストと呼ばれるので、この水の移動経路をアポプラスミック吸水と呼びます。細胞を通る経路は、水分がいったん表皮細胞の細胞膜を通して細胞内に入り、隣接する細胞内を順次道管まで移動していく経路です。表皮細胞と皮層細胞の連続した細胞集団をシンプラストと呼ぶので、この水の移動経路をシンプラスミック吸水といいます。このうち、前者が主たる経路と考えられています。

(参考資料：農文協「農学基礎シリーズ 園芸学の基礎」ほか)



SPAC (土壌-植物-大気連続体) モデルの概略図

SPAC : soil-plant-atmosphere continuum.

「これから始める家庭菜園の初級講座」連続講座(全3回)

「韓国のマッチャンかぼちゃの試食、とてもおいしかったです。種はどこで売っているんですか?」「野菜の肥料や薬の使い方、連作なども理解できて大変、勉強になりました!!」「来年は今年よりも、もっと頑張ろうと思います!!」



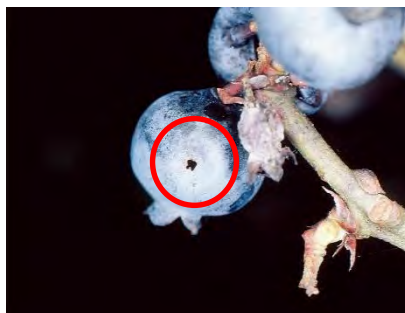
この講座は当センターの相談員が講師になって、家庭菜園の初心者や経験の浅い市民の方々を対象に毎年実施しているものですが、昨年は早々に定員数に達して男性12名、女性8名が受講されました。1回目は「畑の準備と野菜苗の植え付け」。2回目は「果菜類の仕立て方と野菜の病害虫防除」。最終回は「真夏の野菜管理と秋野菜の栽培」についてリアルタイムな野菜全般の技術を全3回にわたって学習していただきました。特に、最終回は韓国のマッチャンかぼちゃの試食会付き。好評につき、本年度も家庭菜園に関する講座開催を継続して実施する予定で準備していましたが、この「新型コロナ」です。



今年はこの講座を含め7月末までに企画した18に及ぶ講座・展示会などが感染防止のため、残念ながら中止です。皆さん、3密を避けて手洗い・マスクで頑張ってください!!

植物の病害虫

その55 「ブルーベリーのオウトウショウジョウバエ」



被害症状（穴）



幼虫(白いウジ 体長6mm)



成虫(雄)

1 寄生しやすい植物

ブルーベリー、オウトウ、ブドウ、キイチゴ、モモ、サクラ、クワ、グミ等に寄生します。

2 被害

寄生された果実は、卵の期間は果面に卵柄が確認できますが、数日間は硬い状況を保ち外観や手の感触では判別が困難です。その後、果皮には幼虫が呼吸するための穴が生じ、果実は軟化して押すと穴から果汁が出るようになります。産卵された直後の果実が出荷されると、消費者に届くまでの間に孵化した幼虫が這い出るおそれがあります。

3 生態

蛹態で越冬します。成虫の発生回数は年間 10 回程度(千葉県、福島県調べ)とされていますがブルーベリー園場では主に開花後期、収穫期および秋季の 3 回前後の発生が確認されています。

産卵は、雌成虫が産卵するための導卵突起で果皮に穴を開けて果肉内に行われますが、卵柄は埋め込まれずに外部に露出しています。

幼虫は、頻りに尾端を果実外部に突き出して呼吸をしながら果肉を摂食します。老齢幼虫は果実外に脱出して蛹化します。

4 防除法

① 耕種的防除

- 腐敗、落下などによる裂果や有傷果は発生源になるために園場外に持ち出し埋設処理を行います。
- 0.98mm目合いの防虫網による被覆(果実が着色し始めたら)が被害防止に有効です。

② 化学的防除

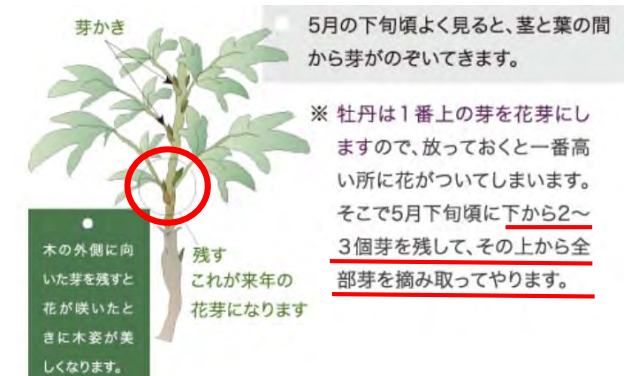
- 薬剤散布は未熟果実が肥大し熟化し始めた収穫期～収穫盛期に7～10日間隔が効果的とされています。
- アセタミプリド水溶剤(商品名:モスピラン水溶剤)を4000倍で散布、収穫前日まで、1回以内。
- ペルメリン水和剤(商品名:アディオンプロアブル)を2000倍で散布、収穫前日まで、2回以内。
- クロチアニジン水溶剤(商品名:ダントツ水溶剤)を2000倍で散布、収穫45日前まで、3回以内。

牡丹の花を毎年楽しむ

春の庭を先取りして彩ったツツジの花も一段落しました。6月は牡丹の花が目をはびきます。牡丹は本州の花と思われがちですが暑さが苦手、-40℃までの耐凍性もあるので旭川でも十分楽しむことができます。

……管理するポイントと作業のアドバイス……

- 花がら摘み…放置すると種子ができて株が消耗します。また、大きな花びらが散ったままでは、灰色カビ病などの発生源になるので、花のすぐ下で切り取っておきます。
- ワキ芽カキ…ワキ芽カキをしないと株の上部に花芽が付き、丈がどんどん高くなってしまいます。新梢の基部に2～3芽残して上部の芽カキを行います。このことで花芽の着生位置を低くすることができます。
- 剪定…折れ枝、枯れ枝、病害虫に侵された枝を処理します。整枝は11月。冬囲いの前に実施します。
- 土寄せ…多年草のシャクヤクの根を台木にして増やしているの、落葉低木である牡丹の自根を早く出させるために株元に土寄せします。土寄せをせず乾いている状態では発根することができません。
- 肥料…バラと同様、牡丹は肥料を欲しが的花木です。良い花を毎年咲かせるためには、堆肥を使った土壌改良が望ましいです。また、毎年良い花を咲かせるためには、①花後のお礼肥と、②花芽分化が終わった9月に固形の油粕などの緩効性肥料を施しておくと言われています。
- 周囲の雑草はこまめに処理するのが一番ですが、雨後などで手遅れになると厄介になりますので、雑草の葉の部分だけに筆で除草剤を塗っておくのも一つの方法です。



5月の下旬頃よく見ると、茎と葉の間から芽がのぞいてきます。

※牡丹は1番上の芽を花芽にしますので、放っておくと一番高い所に花がついてしまいます。そこで5月下旬頃に下から2～3個芽を残して、その上から全部芽を摘み取ってやります。

木の外側に向いた芽を残すと花が咲いたときに木姿が美しくなります。

残すこれが来年の花芽になります

展示室の植物 (90)

パンノキ 学名: *Artocarpus altilis* クワ科 パンノキ属

果実は「パンの実」、または「ブレッドフルーツ」とも呼ばれ、熱帯地域では蒸し焼きや丸焼き、あるいは薄切りにして焼いて食べられています。名前の由来は、パンノキの実を加熱すると白いふわふわしたパンのようになり、手で裂くこともでき、食感もパンに似ているからと言われています。奄美や沖縄地方では、街路樹として植えられていることもあって実をつけた姿を見ることができますが、残念ながら旭川のような寒冷地では、日光が入る温室以外の室内で育てても実がなることはないようです。

